

2017年度業種別部会年間報告

1. 関東金属機械部会

1. 部会運営について

今年度の部会運営方針は次の通りである。

- ・有益な知財情報を提供し、会員相互が意見交換できる機会を提供する。
- ・多くの会員が積極的に参加できる部会運営を目指す。

2. 部会活動について

第1回から第5回の部会を実施し、総出席者人数は計423名（昨年度443名）、総出席会員企業数は計322社（昨年度324社）と、何れも昨年度より若干減少した。

運営方針に基づき、より有益な知財情報の会員の方への提供の場となるよう、今年度は著作権、商標権およびIoT関連の特許情報戦略など、新たなテーマでの講演を企画した。また、第5回の部会では、昨年度大好評でアンケートにて再講演の希望の多かった弁護士・弁理士 鮫島正洋氏に2年続きでの講演をお願いした。

なお、会員企業間の交流を目的とし演前に参加者間の名刺交換を行っているが、運営方針に掲げている“会員相互の意見交換”の更なる深化が今後の課題と考えている。

(1) 第1回部会

特許業務法人 酒井国際特許事務所の3名の弁理士の方に米国、欧州および中国それぞれの最新知財動向について講演頂いた。

弁理士 香島拓也氏からは、米国特許法101条における特許適格性に関する最近の判例について解説頂き、101条違反が出された際のOA応答戦略のテクニックについて紹介頂いた。

弁理士 足立能啓氏からは、単一効欧州特許の批准状況と現状の問題点について紹介頂き、後半では単一効欧州特許の制度内容を分かり易く解説頂いた。

中国弁理士 兪江氏からは、中国審査基準の改定に関する解説と、最近の審査事情につい

での紹介を頂いた。実験データの追加提出に関しては参加者の興味も高く、質問もなされた。

講演後には事務所所長の酒井弁理士も交え、講師の先生方には懇親会へ参加頂き、意見交換および親睦・交流をより深めることができ、有意義な懇親会となった。

(2) 第2回部会

BLJ法律事務所 代表弁護士の遠藤誠氏より、著作権の常識・非常識と題し、企業の従業員が日常の業務の中で留意すべき問題点などを講義頂いた。

講演は、Ⅰ. 著作権とは？、Ⅱ. 会社の業務における著作権の位置づけ、Ⅲ. 会社の業務において著作権が問題となる場面、Ⅳ. AI等の新しい技術と著作権、Ⅴ. ここに気を付けよう！著作権10箇条の5項目から構成された。特に最後の10箇条の留意点は大変分かり易く留意すべき事項の要点をまとめて頂き、社内等への展開を図る際には大変参考となるものであった。また、Ⅳ項のAIの創作物に対する著作権の問題は、直接影響する当部会員はまだ少ないと思われるが、これからの問題として大いに勉強となった。

講演後のキリンビール工場の見学と懇親会では、講師の遠藤弁護士にも参加頂き、講演内ではできなかった一層踏み込んだ質問などで、多くの会員との交流を頂いた。

(3) 第3回部会

今年は、東北大学キャンパス内の講義室をお借りして部会講演を実施し、例年と趣の異なるアカデミックな部会となった。

[第一日目]

■施設見学

東北大学自然史標本館にて、東北大学創立100年の歴史の中で培った人文科学、社会科学、自然科学、工学などの教育研究である学術資料標本類、貴重な標本、発明品を見学した。

■部会講演

東北大学大学院教授の蘆立順実氏に、最近の商標権侵害に関する裁判例の動向と題し、商標での権利行使制限の抗弁において、最高裁判決を基にした商標法独自の解釈および新たに生じた争点について講演頂いた。

商標権法上の権利行使制限の抗弁の特徴について説明頂いた後、除斥期間経過後の商標法4条1項10号違反を理由とした権利行使の制限を争点としたエマックス事件最高裁判決を解説頂いた。最高裁は、一般的には除斥期間経過後の権利乱用の抗弁は許されないが、商標法4条1項10号違反で登録された場合には特段の事情がない限り除斥期経過後でも権利濫用の抗弁は認められることを判決で示した。ただし、これについては、同11号や15号などについても同様に適用されると考えられることや、「特段の事情がない限り」の判断基準の整理など、検討すべき争点が残されている。

難しいテーマではあったが、除斥期間経過後の無効の抗弁を認める裁判所の見解についてなど複数の質問がなされ、活発なる討議ができたものとする。

■懇親会

講演会后、作並温泉の岩松旅館にて懇親会を開催。参加者による自己紹介も行い、相互の親睦がより図られたものと考えている。

[第二日目]

ニッカウキスキー宮城峡蒸留所を見学。普段あまり目にすることがないウイスキーができたまでの工程を見学し見識を深めることができた。

(4) 第4回部会

(株)三井物産戦略研究所の弁理士 山内明氏より、知財情報戦略で炙り出す自動車分野の技術開発動向と将来予測と題し、自動運転技術を題材とした知財情報戦略の進め方について講演頂いた。

知財情報戦略とは、知財情報検索／分析から成る知財情報解析を最大限活用し、知財経営に資する戦略策定や戦略提言を図ることであり、以下の解析ステップを進める。①検索式設定→②件数的位置付け確認→③分野的特徴・強み把握

→④R&Dテーマ変遷把握→⑤将来予測

自動運転分野での解析事例からは、技術要素ごとに各社の強みとなる特徴が表れており、ビジネス戦略の方向性をうかがうことができる。また、母集団規定法（複数の異領域IPCの論理積、ビジネスモデル系のIPC/CPCに着目、ビジネスモデル関連KY検索）を用いることで、新ビジネスモデルの提案を検討した事例を紹介頂いた。

質疑応答では、ユニークIPCランキングの作成方法、非特許文献の調査方法、母集団の作り方など多数の質問があり、先生よりそれぞれに丁寧な回答がなされた。

講演会后、山内弁理士にもご参加いただき、Honda青山ビル6Fレストランにて懇親会を行い、相互の親睦がより図られた。

(5) 第5回部会

内田・鮫島法律事務所 弁理士・弁理士 鮫島正洋氏より、知財戦略理論とその限界と題し、知財戦略セオリと技術のコモディティ化によるセオリの限界、および権利行使が必要となった場合の判断プロセスや法的措置の利害得失について講演頂いた。

鮫島弁理士・弁理士には昨年度の講演に続いてのお願いとなったが、昨年度の講演内容のおさらいに加え、さらに進化させた理論まで紹介頂き、部会後のアンケートでは昨年以上に参加者の好評を得たことが分かった。

知財戦略セオリの限界論では、技術・知財で勝る日本企業がシェアを落とす原因の1つとして技術のコモディティ化を挙げられ、各ステージにおけるその対策（知財戦略と事業戦略）を事業者の立ち位置（先発者・後発者）から説明された。なお、技術がコモディティ化した場合でも、技術の高性能化や新たな市場への技術の応用によりコモディティ化を解消できる場合もあるため、構造変化に対していち早く開発に着手し必須特許を得て先発者となる重要性を述べられた。

講演会后、鮫島先生にも参加頂き懇親会を行い、親睦・交流をより深めることができた。

関東金属機械部会行事一覧

回	日程・会場	講演テーマ・講師	参加数
第1回	6月23日（金） 全国家電会館 （湯島）	「米国の特許適格性に関する最新動向」「単一効欧州特許の概要」 「中国審査基準の改定及び最新事情」 特許業務法人 酒井国際特許事務所 第6技術統括室長 香島 拓也氏 第2技術統括室23グループ長 足立 能啓氏 中国技術統括室長 兪 江氏	59社 68名
第2回	8月25日（金） キリンビール 横浜工場	「著作権の常識・非常識～日本企業の従業員が職務上留意すべき点を中心に～」 BLJ法律事務所 弁護士・博士（法学） 遠藤 誠氏	67社 85名
第3回 （宿泊）	10月20日（金） ～21日（土） 東北大学	「最近の商標権侵害に関する裁判例の動向」 東北大学 大学院法学研究科 法科大学院 教授 蘆立 順実氏	26社 31名
第4回	11月17日（金） Honda青山ビル	「知財情報戦略で炙り出す自動車分野の技術開発動向と将来予測～自動 運転を中心として～」 （株）三井物産戦略研究所 知的財産室長 AIPE認定シニア知的財産アナリスト 弁理士 山内 明氏	81社 123名
第5回	3月9日（金） JFEスチール 本社ビル	「知財戦略理論とその限界（技術のコモディ化・権利行使）」 内田・鯨島法律事務所 弁護士・弁理士 鯨島 正洋氏	89社 116名

2. 関東電気機器部会

1. 活動方針

今年度の活動方針は次の通りである。

- ・会員相互や講師との交流の場を増やす
- ・参加者の人数や幅の拡大を図る
- ・会員の希望を反映した運営を行う

2. 部会活動について

部会は年5回開催することとし、当部会固有の活動に加え、関西電気機器部会との交流や異業種との交流も継続実施した。

(1) 第1回部会

今年度の部会活動計画説明後、特許業務法人 HARAKENZO WORLD PATENT & TRADEMARK 弁理士・特定侵害訴訟代理人 鶴田健太郎氏から「IoT特許出願の傾向・権利化のポイントについて」と題してご講演頂いた。

講演では、IoT関連技術は、情報処理技術やネットワーク技術を組合せた発明や技術横断的に利用可能な発明が増えていること、同業種／同分野だけでなく異業種／異分野からの特許出願が増加していることから非競合企業の動向や先行文献調査・侵害調査が広範囲化（困難化）

していること、一社単独による特許ポートフォリオ構築が難しくなっており自社優位性確保と他社連携との両立がポイントとなることなど、業界構造の変化に応じた対応が重要だとの指摘を頂いた。また、特許補正で活用する情報の種別を詳細に記載し追加した事例、全体としてはビジネスルールの特許だが情報の送信先を引例と変えることで権利化につながった事例などを紹介して頂いた上で権利化のポイントや有利な権利を取得するための工夫など、実務上のヒントとなるアドバイスを頂いた。

その後、「掃除支援サーバに関する発明が進歩性欠如で拒絶された場合の対応」または「どの様なビッグデータを保護すべきか」のテーマでテーブルディスカッションを行った。特に拒絶対応では実務に直結していたためか活発な意見交換がなされた。

その後の懇親会では講師の鶴田氏を交え、会員相互の交流・親睦を深めた。また、来賓としてJIPA事務局から西尾事務局長代行にご挨拶を頂いた。

(2) 第2回部会

関東・関西合同電気機器部会として、朝日新

聞などの印刷を行っている(株)朝日プリンテック名古屋工場の見学会と同社 技術・システム担当兼技術センター長の村瀬岳彦氏による「新聞印刷技術の発展推移と最近の新技术動向」と題した講演会を開催した。

工場見学では、同社 白木氏・岩沢氏から同社の概要についてご説明頂いた後、2班に分かれて、輪転機を用いた新聞印刷の様子や印刷に用いるアルミ製刷版の現物などを見学した。

講演では、情報革命としての印刷技術／暮らしに寄り添う印刷など印刷を取り巻く情勢、印刷方式（凸版、凹版、平版、孔版）や作業員の紙補給ミスから生まれたオフセット印刷など印刷技術の全体像、新聞印刷に施している微細化された網点・減斤化（軽量化）された紙や高濃度化されたインキなど新聞印刷ならではの具体例について解説を受けた。また、同社の技術開発では、ローラ再生装置、新聞カラー紙面管理システム、折不良紙検出排紙装置の紹介など、講演は知財情報だけでなく印刷技術や歴史にも触れる幅広い内容で興味深く聴講させて頂いた。

講演会終了後、名鉄犬山ホテルに移動し、講師の村瀬氏もご参加頂いた懇親会を開催し、会員相互の親睦を深めた。また、来賓としてJIPA事務局から志村事務局長にご挨拶を頂いた。

(3) 第3回部会

異業種との交流として、(株)ファンケル美健千葉工場の見学会と(株)ファンケル 総合研究所研究推進室 室長 宇田正紀氏、同室 知財管理グループ 課長 栗村元氏による、「ファンケル創業の歴史と特許事例について」と題した講演会を開催した。

工場見学では、冒頭、ファンケルの事業理念や歴史についての紹介ビデオを視聴後、2班に分かれて、ファンケル美健 千葉工場の主要製品であるマイルドクレンジングオイルや洗顔パウダーなど無添加化粧品の製造ラインを見学した。製造装置はクリーンルーム内（医療品レベルの清浄度：Class100）にあり、従業員は無塵服を着用して作業するなど徹底した衛生管理が

なされていた。各作業工程の場所毎にビデオによる解説や同社 管理グループの三橋八重子氏からの詳細な補足説明により理解が深まった。

講演では、宇田氏に「ファンケル創業の歴史」を、栗村氏に「特許事例紹介」をお話し頂いた。「創業の歴史」では、ファンケルの化粧品事業「無添加化粧品」のはじまりが1970年代の添加剤に起因する黒皮症の発生、健康食品事業のはじまりが1980年代に日本人の栄養素が不足したことや偏った食生活、高価な健康食品・健康食品業界への不信感など、それぞれ社会問題として顕在化した事象に対し企業として真摯に対応していることに好感が持てた。「特許事例紹介」では、スキンケア容器のキャップ開発者が機械系出身であり、化粧品や健康食品などの主要製品に携わる化学系分野以外の研究者も存在すること、化粧品は材料の組合せだけでも無数にあることから特許のクロスライセンスはほぼ存在しないことは意外な一面であった。

その後の懇親会では講師の方々を交え、会員相互の交流・親睦を深めた。ちなみに、これまでの部会の女性参加割合は1～1.5割程度であったが、本部会では4割近くの方が女性の参加者であった。

(4) 第4回部会

話題性の高い3テーマを設定し、同時に講演を行う形式で部会を開催した。

テーマ1は「デザイン思考に基づく知財権ミックス戦略」と題し、東京理科大学 イノベーション研究科 教授 鈴木公明氏よりご講演頂いた。テーマ2は「知的財産活動に資する発明の捉え方と発明の創出方法」と題し、影山法律特許事務所 弁護士・弁理士・工学修士 影山光太郎氏よりご講演頂いた。テーマ3は「日本国税関の効果的な活用方法」と題し、瀧野国際特許事務所 所長・弁理士 瀧野文雄氏よりご講演頂いた。

講演会終了後、各テーマと合同で懇親会を開催し、講師の方々や会員相互の交流・親睦を深めた。

(5) 第5回部会

今年度の部会活動報告後、『IPランドスケープ実践のための知財情報戦略』～特許マーケティングを中心として～』と題し、(株)三井物産戦略研究所 技術・イノベーション情報部 知的財産室 室長 山内明氏よりご講演頂いた。

IPランドスケープとは、戦略提言に資する高度な情報収集・分析のことであり、「知財情報と非知財情報」の視点に加え「攻め／守り」「時系列／非時系列」「マクロ／ミクロ」の視点と「仮説／検証の積上」「ポジション把握」「ベンチマーク対比」「将来予測」のスキームの計8つのポイントが重要であることを強調。また、日本企業の重要経営課題を「アライアンス／企業買収」「研究開発」「マーケティング」「資金調達」の4つに分類、いずれも「知財情報戦略」で対応可能であると指摘した。さらに、これまでの実践分析事例として、自社技術の優位性検証による有望用途を検索した事例、自社技術とのシナジー効果が見込まれるアライアンス先を探索した事例、ビジネスモデル特許情報と政府や企業情報などから新たなビジネスモデルを検討した事例など、7事例について紹介。知財価値評価の前提ともなる高度な解析方法や精度の高さ

など、大変、内容の濃いご講演であった。

その後、「前述の7事例に基づき自社の課題などの解決手法について自由討論する」という課題でグループディスカッションを行った。

その後の懇親会では講師の山内氏を交え、会員相互の交流・親睦を深めた。なお、今回の部会は、関西電気機器部会の織田役員をご招待するとともに聴講希望のあった関東化学第一部会の星野幹事、松田幹事にもご参加頂いた。

3. むすび

話題性のあるテーマや懇親会開催の工夫などにより少しでも多くの会員の皆さまにご参加いただけるよう運営面での工夫に心がけたことで、参加者も昨年度と比べ増加させることができた。今後も皆さまの意見を基に良い部会とするように活動して参ります。

最後に、今年度の部会の企画、運営にあたり、日本知的財産協会関係者、会員各位、部会役員・幹事OBの方々、講師の方々、施設見学の関係者の方々に、多大なご支援・ご協力を頂き、厚く御礼申し上げます。また、業務多忙の中、部会の企画、準備、運営などに積極的に携わって頂いた幹事の皆様、そして幹事を派遣頂いた会員各位に心から感謝申し上げます。

関東電気機器部会行事一覧

部会	開催日・場所	出席数	内 容
第1回 講演	6月30日(金) アルカディア市ヶ谷	87社 113名	講演：IoT特許出願の傾向・権利化のポイントについて 講演者：特許業務法人 HARAKENZO WORLD PATENT & TRADEMARK 弁理士 鶴田 健太郎氏
第2回 東西合同	9月8日(金) ～9日(土) 朝日プリンテック 名古屋工場	46社 61名	工場見学：(株)朝日プリンテック 名古屋工場 講演：新聞印刷技術の発展推移と最近の新技术動向 講演者：(株)朝日プリンテック 技術・システム担当 兼 技術センター長 村瀬 岳彦氏
第3回 異業種 交流	10月13日(金) 見学：ファンケル美健 千葉工場 講演・懇親会：柏の 葉カンファレンスセ ンター	48社 66名	工場見学：(株)ファンケル美健 千葉工場 講演：ファンケル創業の歴史と特許事例について 講演者：(株)ファンケル 総合研究所 研究推進室 室長 宇田 正紀氏／知財管理グループ 課長 栗村 元氏

第4回 講演	12月1日（金） アルカディア市ヶ谷	65社 85名	3テーマ講演 講演1：デザイン思考に基づく知財権ミックス戦略 講演者：東京理科大学 イノベーション研究科 教授 鈴木 公明氏 講演2：知的財産活動に資する発明の捉え方と発明の創出方法 講演者：影山法律特許事務所 弁護士・弁理士・工学修士 影山 光太郎氏 講演3：日本国税関の効果的な活用方法 講演者：瀧野国際特許事務所 所長・弁理士 瀧野 文雄氏
第5回 講演	3月8日（木） アルカディア 市ヶ谷	70社 80名	講演：IPランドスケープ実践のための知財情報戦略 ～特許マーケティングを中心として～ 講演者：(株)三井物産戦略研究所 技術・イノベーション情報部 知的財産室 室長 弁理士 AIPE認定シニア知的財産アナリスト 山内 明氏

3. 関東化学第一部会

1. 部会の運営について

前年と同じく「人の繋がり」と「知財力UP」をキーワードに、以下のような方針で運営を行った。

- ①多くの会員（特に若手や女性）が参加しやすく、会員のグローバルかつ広範な知財活動（特許に限定せず、商標や知財戦略なども視野に入れた）に役立つ部会の企画・運営を図る
- ②会員相互の親睦と研鑽を目的として、業種や世代を超え、人的交流の図れる場を提供する
- ③会員相互の情報交換や会員が興味あると思われる情報を提供することにより、会員の知財力UPを図る

2. 部会活動について

例年通り、5回の部会を開催し、その延べ参加者数は385名であった。概要は以下の通りである（下表参照）。

(1) 第1回部会（講演会）

知財コミュニケーション研究所代表で弁理士の新井信昭氏から『「伊右衛門」と「コカ・コーラ」の著者が語る、「リスクマネージング」のための“オープン・クローズ”戦略』という演題で、オープン・クローズ戦略を行うための第一歩として、企業が知財リスクを適切に取るためのリスク評価の手法について、ご講演いた

だいた。

また、2017年度部会活動計画説明と役員・幹事からの挨拶を行った。

(2) 第2回部会（バス部会）

(株)明治 坂戸工場にて同社商品の製造現場を見学、理化学研究所にて、113番目の元素発見の場となった仁科加速器研究センターを見学の後、同所産業連携本部次長の古林亮介氏から、「理化学研究所における知的財産の確保とオープンイノベーションの取り組みについて」という演題で、商業実施を行わない研究開発法人ならではの技術創製、技術移転、実用化促進といった知財活動の取り組みを、産業界との連携制度、理研から生まれた製品の紹介などを交えてご講演いただいた。

(3) 第3回部会（宿泊部会）

塩野義製薬(株)金ヶ崎工場を見学した後、同工場にて、同社知的財産部疼痛神経G&管理Gグループ長の清川貢氏から「塩野義製薬の知財戦略」という演題で、同社事業の紹介、および会社の経営目標を達成するための知財活動、知財戦略について、医薬業界における独特な知財環境を踏まえてご講演いただいた。講演後、花巻温泉郷 山の神温泉 優香苑に移動し、懇親会を開催し、参加者間で親睦・交流を深めることができた。翌日は(株)岩手ヤクルト工場および小岩井農場を見学した。

(4) 第4回部会（講演会）

日産自動車(株)知的財産部商標Gマネージャー

の江原晋作氏が講演者、IPプロモーション部主管の大橋正憲氏がサポートという講演形態をとり、「知財部員からみた、中国模倣対策ビジネスとの付き合い方」という演題で、模倣品対策をグローバルに展開する中、中国においては、「売らせない」摘発活動を行うとともに「買う気にさせない」啓発活動に注力していることなど、中国の広大な市場規模、一様ではない市場性を踏まえ、投資対効果の最大化を念頭においた、同社の取り組みについて、ご講演いただいた。

(5) 第5回部会（講演会）

三菱ケミカル(株)知的財産部部長の正木泰子氏より、「三菱ケミカルの知財戦略活動について：三菱化学、三菱樹脂、三菱レイヨン3社知的財産部統合を経て」という演題で、2017年4月に統合を完了した同社の紹介、知財のあるべき姿論から始めた3社知的財産部統合、また、統合後の組織体制、知財戦略、知財教育など幅広くご講演いただいた。

最後に2017年度部会活動実績報告と退任する役員・正幹事から挨拶を行った。

(6) 化学関連東西合同幹事会

(2017年9月15日（金）～16日（土）)

今年度は関西化学部会幹事団が企画・運営を担当し、関東化学第一部会（8名）、関東化学第二・商社部会（8名）、関西化学部会（4名）の計20名が参加した。まず、自然科学研究機構の核融合科学研究所を見学し、勝川ルネックの会議室にて、「各部会の運営と現状」、「参加各社の紹介」について説明した後、「社内知財教育」に関して、全員でフリーディスカッションを行った。その後、ホテルプラザ勝川にて懇親会を行い、情報を交換するとともに、親交を深めた。

3. むすび

今年度部会の企画・運営にあたり、日本知的財産協会の関係者、会員各位、部会幹事OBの皆様、講師の方々などから多くのご助言・ご指導・ご協力を賜り、円滑に部会活動を行うことができましたこと、厚く御礼申し上げます。また、多忙の中、精力的に準備等に当たっていただいた正副幹事の皆様、幹事を派遣していただいた会員各位に心から深く感謝申し上げます。

関東化学第一部会活動概要

部会	日時	参加数	内 容
第1回 (講演)	2017年6月2日（金）	94社 101名	1. 講師 知財コミュニケーション研究所 代表 弁理士 新井 信昭氏 演題 『〈伊右衛門〉と「コカ・コーラ」の著者が語る、「リスクマネージング」のための“オープン・クローズ”戦略』 会場 全国家電会館 2. 懇親会（講師含め33名参加）
第2回 (バス)	2017年7月7日（金）	34社 45名	1. 見学①(株)明治 坂戸工場 見学②理化学研究所 本部・和光事業所 2. 講師 特定国立研究開発法人 理化学研究所 産業連携本部 連携推進部 次長 古林 亮介氏 演題 「理化学研究所における知的財産の確保とオープンイノベーションの取り組みについて」 3. 懇親会（ベルセゾン）
第3回 (宿泊)	2017年10月13日（金） ～14日（土）	28社 33名	1. 見学①塩野義製薬(株) 金ヶ崎工場 見学②(株)岩手ヤクルト工場 見学③小岩井農場 2. 講師 塩野義製薬(株) 知的財産部 疼痛神経グループ&管理グループ グループ長 清川 貢氏 演題 「塩野義製薬の知財戦略」 3. 宿泊・懇親会 花巻温泉郷 山の神温泉 優香苑

第4回 (講演)	2017年11月30日(木)	70社 84名	1. 講師 日産自動車(株) 知的財産部 商標Gr マネージャー 江原 晋作氏 (サポート 同社 IPプロモーション部 主管 大橋 正憲氏) 演題 「知財部員からみた、中国模倣対策ビジネスとの付き合い方」 会場 全国家電会館 2. 懇親会(講師含め、32名参加)
第5回 (講演)	2018年2月16日(金)	94社 122名	1. 講師 三菱ケミカル(株) 理事役・知的財産部長 正木 泰子氏 演題 「三菱ケミカルの知財戦略活動について：三菱化学、三菱樹脂、三菱レイヨン3社知的財産部統合を経て」 会場 全国家電会館 2. 懇親会(講師含め39名参加)

4. 関東化学第二・商社部会

1. 運営方針

下記方針により本年度の部会を運営した。

(1) 事業貢献に寄与し得る知財活動の推進を図るため、会員の関心が高い価値ある情報を提供する。

(2) 会員相互の円滑なコミュニケーションのために、会員相互の親睦と情報交換の場を提供する。

2. 部会活動

(1) 第1回部会

「最近における特許の進歩性の判断の予測性について」と題して、創英国際特許法律事務所の共同代表パートナー 弁護士 塚原朋一氏に、改定審査基準、近時の裁判例を題材として、近時の審査、訴訟における進歩性判断の傾向についてご講演頂いた。

(2) 第2回部会

「急速に変化する中国の知財環境を考慮したー中国事業と知財戦略ー」と題して、黒瀬IPマネジメント 弁理士 黒瀬雅志氏に、中国における知財環境の実情を、中国における司法制度改革や訴訟、技術ライセンス時の留意点、採るべき知財戦略に関するお話しを交え、ご講演頂いた。

併せて、キリンビール(株)横浜工場の見学を行い、製造装置の実物や映像、展示物を通じて、ビール製造工程についてご説明頂いた。

(3) 第3回部会

講演会と工場見学を宿泊部会形式で開催した。講演会は、「澁谷工業株式会社の歴史と知的財産」と題して、澁谷工業(株) 知的財産部長 高桑建樹氏に澁谷工業(株)の事業概要、事業内容の変遷、知財戦略についてご講演頂いた。

併せて、澁谷工業(株)の本社第1工場、第2工場の工場見学会を開催し、ボトリングシステムの実機をもとに、澁谷工業(株)の製品についてご説明頂いた。

(4) 第4回部会

「事業競争力強化の協調と競争の戦略の実践」と題して、丸島特許事務所 所長 丸島儀一氏に、競争力を高める知財経営、知財戦略を事業戦略に組み込むための知財機能、事業戦略と連動した権利活用活動、事業強化のアライアンス戦略についてご講演頂いた。

(5) 第5回部会

「知財ミックスを利用したブランド戦略」と題して、ユアサハラ法律特許事務所 パートナー 弁理士 青木博通氏に、商品流通のタッチポイントにおいて知的財産権(商標権、意匠権、著作権)や不正競争防止法をミックスしてブランドをどのように保護すべきか、事例を交えてご講演頂いた。

(6) 化学関連東西合同幹事会

関西化学部会、関東化学第一部会及び当部会の各幹事から、各部会の運営、現状を紹介頂き、今後の部会運営の参考とした。また「社内知財

教育」をテーマとし、知財教育のあり方について意見交換を行った。

また自然科学研究機構 核融合科学研究所を見学し、核融合についての理解を深めた。

3. むすび

会員企業の関心が高い話題を取り上げること、ならびに部会の講演内容のバランスを取ることを基本方針として、部会の講演テーマ及び講師の検討を実施し、宿泊部会1回を含む計5回の部会を開催した。いずれの部会も想定を超

える会員参加のもと、講演会での活発な質疑や懇親会での交流も含め、活動方針に沿った部会活動を無事終えることができた。

全部会とも盛会のうちに終えることができたのは、会員各位、講師の方々、施設等をご提供頂いた方々、および日本知的財産協会事務局など、多数の方々のご厚意とご協力によるものと感じております。この場を借りて、心より御礼を申し上げます。

関東化学第二・商社部会行事一覧

	開催日	参加者	部会形式/会場	演 題	講 師
1	5月12日(金)	64社 83名	【講演会】 全国家電会館	最近における特許の進歩性の判断の予測性について	創英国際特許法律事務所共同 代表パートナー 会長 弁護士 弁理士 塚原 朋一氏
2	7月28日(金)	57社 88名	【講演会】 麒麟ビール(株) 横浜工場	急速に変化する中国の知財環境を考慮した-中国事業と知財戦略-	黒瀬IPマネジメント 代表弁理士 黒瀬 雅志氏
3	10月13日(金) ~14日(土)	21社 23名	【講演会】 澁谷工業(株)	わが社の歴史と知的財産	澁谷工業(株) 知的財産部 部長 高桑 建樹氏
4	11月22日(水)	52社 78名	【講演会】 持田製薬(株) ルークホール	事業競争力強化の協調と競争の戦略の実践	丸島特許事務所 所長 丸島 儀一氏
5	2018年 2月16日(金)	59社 85名	【講演会】 北とぴあ スカイホール	知財ミックスを利用したブランド戦略	ユアサハラ法律特許事務所 パートナー 弁理士 青木 博通氏

5. 関西金属機械部会

1. 運営方針

当協会のスローガン「Creating IP Vision for the World」を念頭に、今年度の基本方針のうち、「グローバル活動の推進」「JIPA内部活動の活性化」に基づき、当部会を下記方針で運営した。

【基本方針】：

企業の知財総合力の向上に資する知財情報の提供と、企業間交流の活性化

【具体的な内容】：

(1) グローバル戦略から日々の知財戦術までにわたる幅広い知財情報の提供

(2) 業界・世代・性別を超えた人的交流の促進

(3) 企業間交流の活性化や、有用な情報提供による会員の知財力アップ

2. 部会活動

上記の基本方針に従い、別表に示す通り5回の部会を開催し、その概要は以下の通りである。

(1) 第1回部会

姫路市のグローリー(株)本社ショールームにて各種通貨処理機を見学したのち、本社会議室にて本年度の部会運営方針と活動計画の説明及び講演を行った。講演は、グローリー(株) 知的財産部 国内グループマネージャー 松本和久氏

に「グローリーの知的財産活動」と題してご講演頂いた。この講演では、知的財産部の使命、体制、知的財産活動の概要についてご説明頂いた。グローリーでは知的財産部は社長直下の組織であり、事業の動きとベクトルを合わせた知財活動の概要や、自社製品に使用されているだけでは評価が上がらない権利評価の仕組みなどについてご説明を頂いた。

(2) 第2回部会

吹田市のアサヒビール(株)吹田工場にてビール生産ラインを見学したのち、同ホールにて、(株)SCREEN IPソリューションズ シニアアドバイザー 和田宏隆氏に「株式会社SCREENホールディングスにおける知財部門分社化について」と題してご講演頂いた。この講演では、SCREENグループの事業概要、事業部制から持ち株会社制への変遷、知財分社化にあたり知財の持ち方や事業会社への知財経費請求、権利移転、弁理士法への抵触有無の検討などのプロセスについてご説明頂いた。コストセンター意識からクライアントへの品質の高い知財サービスの提供へと知財部員の意識を改革することが重要であると説かれた。

(3) 第3回部会

例年通り、関西三業種合同部会（電気機器、化学、金属機械）として、今年度は福岡市にて開催した。一日目は海の中道奈多海水淡水化センターを見学したのち、講演会場にて、JIPA・久慈専務理事から会務報告及び今年度の知財関係の法改正案件として大きな二つのテーマについてご紹介頂いた。一つ目は今後IoTや人工知能などで急速に増えるデータの取り扱いで、データを不正競争防止法の営業秘密と同じように保護するかどうか論点だが、保護しすぎるとデータの利用が制約されるのではないかの懸念があるとの点。二つ目は標準必須特許のライセンスへの対応。今後各業種で通信などの標準必須特許を使うことが多くなるが、それを保有する権利者はこの機会にロイヤルティ収入を増やしたい、他方そこで権利行使されると各業種のIoTの利用やインフラの運用が妨げられる。

当初特許庁は特許庁が介入して裁定を行うような制度を提案していたが、現時点では単にライセンスのガイドラインを作るだけにとどめるような提案をしている。以上2点のご紹介を頂いた。

その後、TOTO(株)法務本部知的財産センター 山野秀二氏より、「TOTOの知的財産戦略」と題してご講演頂いた。この講演では、特許や意匠の価値を評価するための資産価値指数の考え方に基づいた知財投資のレベル決定や出願報奨制度といった知財活動、事業戦略（コンセプト）と研究開発戦略（技術開発）との強力な連携により、ビジネスにおける競合優位性を高めるための知財戦略、および商標戦略についてご説明頂いた。

二日目は、華誠律師事務所 シニアコンサルタント 相澤良明氏より、「中国知財訴訟の動向と日本企業の留意点」と題してご講演頂いた。この講演では、中国の知財権利行使ルートである行政ルートと司法ルート、民事訴訟、無効請求の解説と最新の動向についてご説明頂いた。特許侵害判断と損害賠償では、最近の変化として、機能的表現の権利解釈が昨年の司法解釈（二）により、明細書の記載範囲から当業者の技術常識の範囲まで拡大していること、昨年から高額な賠償額を認定する傾向があること、技術標準などに関係する紛争では、中国企業に有利な判断がされる状況となっていること等をご説明頂いた。

(4) 第4回部会

例年通り大阪・住友クラブにて関西電気機器部会との二業種合同部会として開催した。講演は(株)如水 代表取締役 弁理士 中村大介氏に「知財力が低いのではない、技術力が低いのだ！知財部門発で実践する研究開発改革」と題してご講演頂いた。この講演では、独自技術の創出が弱いのは技術融合の仕組み不足が原因であり、特許の被引用回数（研究開発の質）と将来利益及び将来利益の不確実性との間には相関があるので、独自性のある技術を創出し利益率を維持するために、人的融合や独自性を重んじる仕組みの構築などが必要であることをご説明頂

いた。

(5) 第5回部会

YKK AP(株)四国製造所にてアルミサッシのアルミ枠押し出しラインや表面処理ラインを見学したのち、講演会場にて、ユニアス国際特許事務所 所長 弁理士 梶崎弘一氏に、「IoT・AI発明の把握と出願への落とし込み－機械・金属分野を想定して－」と題してご講演頂いた。この講演では、IoT・AI特許を従来のビジネスモデル特許と対比して特徴点や、審査基準に照らした発明該当性、新規性、進歩性の考察について平易に解説して頂いた。さらにIoT・AI発明のパターン化の例と、金属・機械分野を想定

したアイデア出しと出願への落とし込み、実際のIoT・AI特許を用いた具体例についてご説明頂いた。

3. むすび

当部会は会員数が少ないにも係らず、部会や懇親会等に多くのメンバーにご参加頂き、グローバル戦略から日々の知財戦術までにわたる幅広い知財情報の提供、会員相互の活発な交流や会員の知財力アップを図ることができた。最後に、部会の運営にご協力頂きました講師、見学先の方々ならびに日本知的財産協会の事務局の方々に厚く御礼申し上げます。

関西金属機械部会行事一覧

部会	日程	場所（見学先）	参加数	演題／講師
第1回 【単独】	7月7日（金）	（姫路） グローリー(株) 本社ショールーム	17社 27名	『グローリーの知的財産活動』 グローリー(株) 知的財産部 国内グループマネージャー 松本 和久氏
第2回 【単独】	9月22日（金）	（大阪） アサヒビール(株) 吹田工場	14社 24名	『(株)SCREENホールディングスにおける知財部門分社化について』 (株)SCREEN IP ソリューションズ シニアアドバイザー 和田 宏隆氏 (元・(株)SCREENホールディングス法務・知財執行役員)
第3回 【三業種 合同】	10月27日（金） ～28日（土）	（福岡） 福岡地区水道企業 団 海水淡水化センター	64社 85名	①『TOTOの知的財産戦略』 TOTO(株) 法務本部 知的財産センター 山野 秀二氏 ②『中国知財訴訟の動向と日本企業の留意点』 華誠法律事務所 Watson & Band Law Offices シニアコンサルタント 相澤 良明氏
第4回 【二業種 合同】	12月1日（金）	（大阪） 住友クラブ	54社 68名	『知財力が低いのではない、技術力が低いのだ！ 知財部門 発で実践する研究開発改革』 (株)如水 弁理士 中村 大介氏
第5回 【単独】	2月16日（金）	（香川） YKK AP(株) 四国製造所	16社 27名	『IoT・AI発明の把握と出願への落とし込み－機械・金属 分野を想定して－』 ユニアス国際特許事務所 所長・弁理士 梶崎 弘一氏

6. 関西電気機器部会

1. 活動方針

本年度の活動方針を「知財分野に求められる多様性強化」とし、具体的には「部会を通じて、昨今の制度の変化に対応し得る、多様な人材・

多様なスキルの育成・習得を図る。」とした。

2. 活動テーマ

- (1) 情報財を含む新しい知的財産に関する知識の習得
- (2) 知財グローバル人材の育成
- (3) 異業種との人的交流による時代変化の認

識

3. 活動内容

(1) 第1回部会

(株)ワコールのミュージアム及び商品展示サロンを見学した後、同場所にて三木・伊原法律特許事務所の弁護士・弁理士 伊原友己氏による「営業秘密保護法制と動向」「第4次産業革命」と題するご講演をいただいた。この講演では、知的財産推進計画2017の内容に触れつつ、第4次産業革命といわれる時代の中で、ビッグデータの扱いについて、不正競争防止法の営業秘密、個人情報保護法や匿名加工情報などの法的背景を踏まえつつ、データの利活用に関する企業の注意点などをご講演いただいた。

(2) 第2回部会

関東電気機器部会との合同の宿泊部会として、(株)朝日プリンテック名古屋工場にて、輪転機を用いて実際に新聞を印刷している様子等を見学した。スピードと質を兼ね備えた巨大な印刷設備は圧巻であった。その後、技術センター長の村瀬岳彦氏に「新聞印刷技術の発展推移と最近の新技术動向」と題するご講演をいただき、印刷の歴史から、印刷の方式、最新の新聞印刷技術の発展についてご説明いただいた。

(3) 第3回部会

関西金属機械部会、関西化学部会との三業種合同の宿泊部会として、一日目は、海の中道奈多海水淡水化センターを見学し、その後、TKPカンファレンスシティ博多にて、日本知的財産協会・専務理事の久慈直登氏から今年度の知財関係の法改正案件として、データの取り扱い、及び、標準必須特許のライセンス対応の二点についてご紹介いただいた。その後、TOTO(株)法務本部知的財産センター知財企画グループ山野秀二氏より、「TOTOの知的財産戦略」と題し、TOTOの知財戦略、グローバルブ

ランディングなどのご講演をいただいた。

二日目は、華誠律師事務所シニアコンサルタント相澤良明氏より、「中国知財訴訟の動向と日本企業の留意点」と題し、中国での権利行使に際する最新の状況をご紹介いただいた。

(4) 第4回部会

関西金属機械部会との二業種合同部会として、住友クラブで講演会を開催した。講師の(株)如水 弁理士 中村大介氏より、「知財力が低いのではない、技術力が低いのだ！ 知財部門発で実践する研究開発改革」と題してご講演をいただいた。この講演では、事業の収益は独自性からもたらされるのであり、独自性のある研究開発を行えるようにテーマ創出プロセスの改革が必要であり、知財部門も研究開発の仕組みの構築に関与していくべきであるとお話しいたされた。

(5) 第5回部会

ローム(株)京都駅前事業所にて、ローム(株)法務・知的財産部長 名倉孝昭氏に会社紹介と知財活動についてご紹介いただき、その後、エスキューブ(株)代表取締役社長 田中康子氏に、「知財英語コミュニケーションから見えてきた知財人財の育成」と題して、人材育成に重要な「アウトプットする教育」についてご講演をいただいた。その後、月桂冠大倉記念館を見学した。

4. むすび

本年度の活動方針である「多様性強化」に基づき、法改正・最新技術動向・中国知財・企業知財戦略・知財人財育成と、様々な内容についてご講演いただいた。参加者にとって有意義なものとなったのであれば幸いです。

また、講演会終了後の懇親会は、会員相互の情報交換、人脈形成の場となり、有意なものとなったと考える。

関西電気機器部会行事一覧

部 会	開催日・場所	出席数	内 容
第1回 (単独：半日) 関西電気機器 部会	2017年6月2日(金) 見学 (株)ワコール ミュージアム商品展示サロ ン 講演 同上	42名	1. 見 学 (株)ワコール ミュージアム／商品展示サロ ン 2. 部 会 (2017年度運営方針, 活動計画など) 3. 講演会 三木・伊原法律特許事務所 弁護士・弁理士 伊原 友己氏 「営業秘密保護法制と動向」 「第4次産業革命」 4. 懇親会 同上
第2回 (合同：宿泊) 東西合同電気 機器部会	2017年9月8日(金) ～9日(土) 見学 (株)朝日プリンテック 名古屋工場 講演 同上	関西：16名 関東：44名 60名	1. 見 学 (株)朝日プリンテック 名古屋工場 2. 講演会 (株)朝日プリンテック 技術システム担当兼 技術センター長 村瀬 岳彦氏 「新聞印刷技術の発展推移と最近の新技術 動向」 3. 懇親会 名鉄犬山ホテル
第3回 (合同：宿泊) 関西三業種合 同部会(電気 機器・化学・ 金属機械)	2017年10月27日(金) ～28日(土) 見学 海の中道奈多 海水淡水化センター 講演 TKPカンファレンス シティ博多	電気：27名 金属：22名 化学：30名 その他： 1名	1. 見 学 海水淡水化センター 2. 関西部会 日本知的財産協会専務理事 久慈 直登氏 3. 講演会 ■TOTO(株) 法務本部 知的財産センター 知財企画グループ 山野 秀二氏 「TOTOの知的財産戦略」 ■華誠律師事務所 Watson & Band Law Officesシニアコンサルタント 相澤 良明氏 「中国知財訴訟の動向と日本企業の留意点」 4. 懇親会 ホテルクリオコート博多
第4回 (合同：半日) 関西二業種合 同部会(電気 機器・金属機 械)	2017年12月1日(金) 講演 住友クラブ	金属：28名 電気：40名	1. 講演会 (株)如水 弁理士 中村 大介氏 「知財力が低いのではない, 技術力が低い のだ! 知財部門発で実践する研究開発改 革」 2. 懇親会 住友クラブ
第5回 (単独：半日) 関西電気機器 部会	2018年2月2日(金) 見学 月桂冠大倉記念館 講演 ローム(株)京都駅前ビ ル 大会議室	37名	1. 見 学 月桂冠大倉記念館 2. 講演会 エスキューブ(株) 代表取締役社長 エスキューブ国際特許事務所所長 知財経 営コンサルタント・弁理士 田中 康子氏 「知財英語コミュニケーションから見て きた知財人財の育成」 3. 懇親会 京の台所 月の蔵人

7. 関西化学部会

1. 運営方針

当協会の基本方針に従い、下記方針で運営した。

(1) グローバルな知財活動に役立つ情報を提供する。

(2) 知財実務を支える専門情報及び人材育成

の為の情報を提供する。

(3) 世代を超えた会員相互の情報交換と親睦を深める交流の場を提供する。

2. 部会活動

上記の運営方針に従い、別表に示す通り4回の部会を開催した。その概要は以下の通りである。

(1) 第1回部会

本年度の部会運営方針と活動計画を説明した後、御堂筋法律事務所の高畑豪太郎氏に、「職務発明規程の改定の現状～法改正後の対応状況の分析と実務上の留意点～」と題してご講演を頂いた。この講演では、平成28年4月1日に改正特許法が施行されたこと（職務発明制度の見直し）、及び、平成29年3月に、各企業における新職務発明制度への対応状況についての調査研究結果が公表された事に関し、講師の経験および当該調査研究結果を踏まえて、法改正後の各企業での対応状況を分析するとともに、職務発明規程の改定における実務上の留意点について解説された。

(2) 第2回部会

例年通り、関西三業種合同部会（金属機械、電機機器、化学）として開催し、初日は福岡県福岡市の海の中道奈多海水淡水化センターを見学した。その後、同市のTKPカンファレンスシティ博多にて部会及び1件目の講演を行った後、懇親会をホテルクリオコート博多で開催した。翌日はTKPカンファレンスシティ博多にて、2件目の講演を行った。

初日は「TOTOの知的財産戦略」と題して、TOTO(株) 法務本部の山野秀二氏にご講演を頂いた。TOTOの知財戦略として、特許出願戦略手法を策定する事や、特許や意匠の価値を評価するための資産価値指数を導入する事についてお話を頂いた。また、経営資源としての知的財産、グローバルブランディング、事例紹介などについても講演して頂いた。

2日目は、華誠律師事務所 シニアコンサルタントの相澤良明氏に「中国知財訴訟の動向と日本企業の留意点」と題して、中国における知財訴訟の実情（司法ルート及び行政ルート）や、中国企業の知財活動についてご講演を頂いた。質疑応答においては、裁判の管轄意義に関する質問や、日本企業と中国企業の紛争についての質問等がなされた。

(3) 第3回部会

姫路の「あいめっせホール」にて開催した。

本年度の部会運営方針と活動計画を説明した後、「企業関係者に知って頂きたい大学知財の取り組み」と題し、山口大学 知的財産センター長の佐田洋一郎氏にご講演を頂いた。職務発明の原始使用者帰属や、自民党の知財戦略に関する提言などの動きもあり、大学においても知的財産の組織管理が求められている。大学知的財産の新たな視点として、技術指導や、共同・受託研究、また、「共同開発」成果物の表記による商品の信用力の向上など、多様な事例がある。また、発明の帰属に関する話題や、共同研究における発明の寄与率と持ち分について説明して頂いた。さらに、大学の知財戦略事例として、QRコードの特許無償公開でQRシステムを世界標準化させ、読み取り器の特許で収益確保を図った事などについて、解説を頂いた。

講演会の終了後、灘菊酒造に移動し、酒造設備等の見学を行った。

(4) 第4回部会

(株)堀場製作所のびわこ工場に赴き、工場内及びラボの見学を行った。その後、工場内ホールにて会務報告を行った後、「知財情報を用いた将来予測および未来創造の考え方」と題し、(株)イーパテント 代表取締役社長の野崎篤志氏にご講演を頂いた。知財情報を用いた技術予測や競合他社の動向予測がどこまで可能なのか、そして自社の将来を検討していく「未来創造」の上で知財情報をどのように利用すればよいのか、の観点に立ち、デジタルカメラや炭素繊維、二足歩行ロボットなどの過去の事例を用いて考え方の枠組みについて解説された。

3. むすび

知財部門が小規模な会員が少なくないにもかかわらず、部会やその後の懇親会等に多くのメンバーに参加いただき、会員相互の活発な交流を図ることができた。最後に、部会の運営にご協力頂きました講師、見学先の方々ならびに日本知的財産協会の事務局の方々に厚く御礼申し上げます。

関西化学部会行事一覧

部会	日程・会場	参加者数	内 容
第1回	2017年6月29日（木） 日本知的財産協会 関西事務所	81名 (65社)	講演 「職務発明規程の改定の現状－法改正後の対応状況の分析と実務上の留意点－」 講師：高畑 豪太郎氏 (弁護士法人御堂筋法律事務所 弁護士)
第2回 三業種 合同部会	2017年10月27日（金）～28日（土） (福岡／博多) 海の中道奈多海水淡水化センター TKPカンファレンスシティ博多	85名 (64社)	講演1 「TOTOの知的財産戦略」 講師：法務本部 知的財産センター 知財企画グループ 山野 秀二氏 (TOTO株) 講演2 「中国知財訴訟の動向と日本企業の留意点」 講師：シニアコンサルタント 相澤 良明氏 (華誠律師事務所)
第3回	2017年11月28日（火） (兵庫／姫路) あいめっせホール 灘菊酒造	41名 (34社)	講演 「企業関係者に知って頂きたい大学知財の取り組み」 講師：佐田 洋一郎氏 (山口大学 知的財産センター長)
第4回	2018年2月19日（月） (滋賀) (株)堀場製作所 びわこ工場	54名 (45社)	講演 「知財情報を用いた将来予測および未来創造の考え方」 講師：野崎 篤志氏 (株)イーパテント 代表取締役社長)

8. 建設部会

1. 運営方針

下記方針に基づき今年度の部会運営を行った。

(1) 部会運営方針

「会員の啓発および会員相互の交流と親睦」を基本とし、参加者の能動的かつ積極的な活動参加を進めることで部会活動をさらに活性化し、参加者個人の成長と会員企業の発展に資する有益な活動を目指す。

(2) 部会年間活動方針

- 1) 部会活動および研究会活動への能動的な参加を推進し、さらなる活性化を図る。
- 2) 建設業の外にも広く目を向け、知的財産の課題を抽出し、参加者各人の研鑽とモチベーション向上を図る。

2. 部会活動について

今年度は、中少数に分類される規模の知財部が多い建設業界で、知財部の社内プレゼンス向上を目指し「知財の活用」を年間テーマとして、部会の年間計画を立案した。

第2回（日帰り）部会と第3回（宿泊）部会の異業種交流行事は、いずれも好評であった。

また、建設部会としては初めて行ったテーブルディスカッション（第4回部会及び第5回部会）は、一部討議時間の短さを指摘する声もあったが、試み自体は概ね好評であった。

以下に部会各回の概要を記載するとともに、開催記録として別表を末尾に添付する。

(1) 第1回部会

今年度の部会活動方針、活動計画の説明と昨年度の会計報告が行われ、全会一致で承認された。また、ダイダン株の入会が報告された。これにより、建設部会の会員数は46社となった。

部会には、JIPAから西尾事務局長代行と松戸氏に出席いただいた。

a) 講演

「各業界の事例からみた知的財産活用」と題して、明立特許事務所の深澤潔弁理士より講演をいただいた。

自社知財の活用事例、他社知財の活用事例および他社に自社知財を活用してもらう事例について、特許出願と営業秘密管理を使い分けることで模倣防止・実施機会確保を図る食品会社の事例、明細書に顧客の使用形態に応じた実施例を記載して顧客との関係性構築・確保を図る化

学メーカーの事例、協会を設立し品質を確保すると共にライセンス収入を確保する建設会社の事例、特許技術の供与と特許製品を販売するフランチャイズビジネスを展開する建設会社の事例など、建設業界のみならず他業界も含めた多くの事例を説明していただいた。

講演後半では、深澤弁理士から事例問題が出題され、参加者にショートディスカッションを行ってもらい、講評していただいた。講演の最後では活発な質疑応答が行われた。

(2) 第2回部会〈異業種交流日帰り部会〉

FA技術を開発・提供する三菱電機(株)名古屋製作所にて開催した。

a) 工場見学

工場紹介のDVDを視聴した後、2班に分かれて、サーボモータ製造工場、シーケンサ製造工場、製品展示場などを見学した。FA技術およびICT技術が集積された生産現場を見せていただきながら、大幅な生産性・品質・省エネ・安全性向上、セキュリティを実現されていることなどを説明していただいた。

b) 講演

三菱電機(株)知的財産センター長の木全政弘氏より「三菱電機の知財戦略」と題した講演をいただいた。

1921年創業の同社は、その2年後には特許専任の担当者を配置し、その後知財保有件数の上昇に伴い売上高も上昇していることがグラフで示された。

また、三菱電機の標準化活動およびオープン・クローズ戦略を行うにあたり意識されている重要な点を説明していただいた。

他に、三菱電機独自の特許技師制度、社内表彰制度等は非常に興味深く、非常に示唆に富んだ内容であった。

(3) 第3回部会〈異業種交流宿泊部会〉

1日目は、王子製紙(株)の富岡工場を見学し、王子ホールディングス(株)の知財部門の講演を聴講した。2日目は、近傍の歴史的建造物である金刀比羅宮と、近代の代表的土木建造物である瀬戸大橋を紹介する瀬戸大橋記念館を視察した。

a) 王子製紙(株)富岡工場見学

富岡工場工場長である篠田耕太郎氏からご挨拶いただき、工場紹介DVDを視聴した後、工場の職員の方々の案内により富岡工場を見学した。

富岡工場は主に高級な塗工紙を製造しており、「森のリサイクル」、「紙のリサイクル」、「地球温暖化への対応」を3つの柱とした環境配慮型工場として、資源循環型ビジネスを推進している。

最先端のN-1マシンによる抄紙工程を見学した他、富岡工場の敷地内にある専用岸壁の津波対策陸閘ゲート等も見学した。

b) 講演

王子ホールディングス(株)イノベーション推進本部長の横山勝氏より「王子グループにおける知財戦略」と題した講演をいただいた。

まず、王子グループの概要、経営理念、経営戦略、主な事業内容、研究開発体制、イノベーション推進本部の活動を紹介していただいた。

製紙業を中心事業としてきた王子グループでは、縮小しつつある国内市場の動向を踏まえ、次代のビジネスについて検討を進めており、その一例として、王子グループで開発したCNF(セルロースナノファイバー)とそれをを用いたビジネスについて説明があった。

さらに、新たな事業分野に進出するにあたり、マネジメントを行う立場に必要な三つの観点(①従来の事業モデルは崩壊しつつあるか、②事業構造転換先は正しいのか、③そこでどんな攻め方をするのか)の説明をいただき、それを踏まえた事業構造転換の方向性の考え方を、事例を踏まえて説明していただいた。会員企業においても知財部門の役割に関する極めて示唆に富んだ内容であり、講演終了後も所定時間まで活発な質疑応答が行われた。

c) 金刀比羅宮(香川県仲多度郡琴平町)

金刀比羅宮は、宗教法人金刀比羅本教の総本部となった全国にある金刀比羅神社、琴平神社あるいは金比羅神社の総本宮であり、古くから「こんぴらさん」の呼び名で親しまれている。

表参道から785段の石段を登り、重要文化財である表書院、旭社などの歴史的建造物を見学

した後、御本宮で参拝した。

d) 瀬戸大橋記念館（香川県坂出市）

瀬戸大橋記念館は、世界最大級の道路鉄道併用橋である瀬戸大橋完成を記念して整備された瀬戸大橋記念公園内にある施設である。

瀬戸大橋は、1978年の着工から9年6ヶ月を経て1988年4月10日供用開始された。同記念館では、館長自ら、その実現までの過程や架橋工事・架橋技術を映像や展示している模型などを用いて丁寧に説明していただき、着想から100年余の時を経て実現した瀬戸大橋建設という巨大プロジェクトについて学ぶことができた。

(4) 第4回部会

2018年度の業種担当役員・幹事候補の紹介が行われ、建設部会内での了承が得られた。

また、2018年度に建設部会創設40周年の記念行事を行うため、準備ワーキンググループ(WG)を発足し企画等を検討していることも紹介され、準備WG参画を希望する会員企業は業種担当役員に申し出るよう連絡がされた。

a) テーブルディスカッション

「知財の重要性を理解してもらうために知財部門は何をすべきか」というタイトルでディスカッションを行ってもらった。討論に先立ち、小西永岡特許事務所の弁理士永岡重幸氏に基調講演を行っていただいた。

ディスカッションにあたっては、ゼネコン、ハウスメーカー、建材メーカー等の各業種を混合させた5～7名を1グループとし、計8グループを編成した。約40分と短い討議時間であったが、各グループで時間一杯まで活発な議論が行われた。ディスカッションの後に行われたグループ毎の議論の概要報告の最後に、永岡弁理士より、積極的に情報発信等をしたことで定期的取締役会での発表を要請されるようになった食品会社の事例を参考に、社内では求められる知財部門となるよう能動型・提案型の活動が必要である旨説明していただいた。

b) 特許庁からの行政報告等

例年どおり、特許庁審査第一部から審査官をお迎えした。住環境審査長の西村直史氏より、

「土木・建築分野の特許出願動向」について、環境・基盤意匠審査監理官の上島靖範氏より、「意匠行政を巡る最近の動向」に関する説明があった。今年度、新たな試みとして特許庁から建設部会会員企業への事前アンケートが行われた。公共工事入札等における特許活用の実態などが質問項目となっており、結果は特許庁で集計し、全体の傾向について報告がなされた。

また、会員企業から寄せられた審査等に関する質問に対して、丁寧な回答をいただいた。

(5) 第5回部会

JIPA関西事務所にて開催。今年度の部会活動を総括して報告するとともに、次年度の業種担当役員より2018年度の活動計画(案)を説明した。また、JIPAからは志村勇事務局長に部会開会から懇談会終了まで出席いただき、テーブルディスカッションの前の基調講演をしていただいた。

a) 研究会成果発表

今年度の研究会(6月～1月、計9回開催)の研究テーマである「建設業と他の業界との知財活用法の違い」について、研究会メンバー10名を代表して、リーダーの山岸英一郎氏(旭化成)と、サブリーダーである大熊眞市氏(フジタ)及び豊田裕崇氏(旭化成)より成果発表がなされた。その成果は2月21日のJIPAシンポジウムにおけるポスターセッションでも発表した。

b) テーブルディスカッション

ディスカッションのテーマは「知財業務を効率よく進めるために知財部門はどのようなことをすべきか」とし、志村事務局長に基調講演と議論のポイントを提示していただいた。

「知財業務の効率化」については、組織の問題、マネジメントの問題、個人の問題との観点から、部下のモチベーションを上げる方法、センスを良くする方法等を解説していただいた。また、「知財部門はどのようなことをすべきか」については、多少の行き詰まり感や物足りなさを感じることは新たな知財活動への期待感でもあるとして、他業種における最近の新たな知財組織・活動、第4次産業革命というターニングポ

イント、知財部門の位置付けの変遷等を解説していただき、建設業における知財部門のあるべき姿のポイントについて解説していただいた。

その後、7～8名の6グループに分かれ、各社それぞれの問題点や今後優先して取り組む事項について、1時間弱の討議を行った。

ディスカッションの概要の発表後、ホワイトカラーにおける働き方改革、弁理士の効率的利用方法、中少数知財会員フォローアップ研究会の取組など、多くの事例を基に志村事務局長から総評をいただいた。

3. むすび

当部会の各行事や研究会の調査活動に際して

は、都度ご支援くださったJIPA事務局及び関西事務所の皆様、並びに、異業種交流部会の見学先受入れや知財講演をご快諾いただいた会員企業の皆様のおかげで、年度当初の計画どおりに部会を運営することができた。特に今年度初めて行ったグループディスカッションでは、異業種間（ゼネコン⇔建材メーカー等）での考え方の違いを改めて理解する機会となったことに加え、通常の部会・懇親会ではなかなか話し辛い業務に関する問題点を議論できた点で有意義であったと考える。今年度の活動で学んだことを通じ、今後、会員各社の知財力及び社内プレゼンスが更に向上していくものと期待する。

別表 2017年度建設部会の開催記録

部会	開催日／開催場所	出席数	内 容
第1回	2017年5月19日（金） 全国家電会館	41社 63名	講演：各業界の事例からみた知的財産活用 講師：明立特許事務所 弁理士 深澤 潔氏
第2回 異業種交流 日帰り	2017年7月14日（金） 三菱電機㈱ 名古屋製作所	39社 48名	講演：三菱電機の知財戦略 講師：三菱電機㈱ 知的財産センター長 木全 政弘氏 見学：三菱電機㈱ 名古屋製作所（愛知県名古屋市）
第3回 異業種交流 宿泊	2017年10月5日（木） ～6日（金） 王子製紙㈱ 富岡工場、他	34社 38名	講演：王子グループにおける知財戦略 講師：王子ホールディングス㈱ 常務グループ経営委員 イノベーション推進本部長 横山 勝氏 見学①：王子製紙㈱富岡工場（徳島県阿南市） 見学②：金刀比羅宮、瀬戸大橋記念館（香川県）
第4回	2017年12月1日（金） 東京グランドホテル	41社 58名	講演：知財の重要性を理解してもらうために知財部門は何をすべきか 講師：小西永岡特許事務所 弁理士 永岡 重幸氏 報告①：土木・建築分野における最近の出願動向等について 報告者：特許庁 審査第一部 住環境 審査長 西村 直史氏 報告②：意匠行政を巡る最近の動向 報告者：特許庁 審査第一部 環境・基盤意匠 審査監理官 上島 靖範氏
第5回	2018年2月9日（金） JIPA関西事務所	38社 51名	報告：「建設業と他の業界との知財活用法の違い」に関する研究 報告者：旭化成㈱ 山岸 英一郎氏（研究会リーダー） 他 講演：知財業務を効率よく進めるために知財部門はどのようなことをすべきか 講師：日本知的財産協会 事務局長 志村 勇氏